

加速された短寿命核ビームの実験施設、TRIACとそこでの物理  
“Accelerated RNB facility, TRIAC and its physics”

宮武 宇也 氏 (高エネルギー加速器研究機構)  
Prof. Hiroari MIYATAKE (KEK)

オンライン質量分析器と専用の重イオン線形加速器からなるTRIAC(Tokai Radioactive Ion Accelerator Complex)は、2005年後期より共同利用を開始するとともに、開拓的な研究をおこなっている。核子当たり1.1 MeVまでの短寿命核ビーム供給が可能で、エネルギー可変、高エネルギー分解能、高エミッタンスと言う特徴を生かして、これまでに $^8\text{Li}$ ビームなどをもちいた天体核物理、物質科学への応用研究で成果が生まれている。

コロキウムでは、はじめにTRIAC施設の概要を説明し、これまでに得られた成果を紹介する。また今年度後期から本格的利用を検討している中性子過剰な核分裂片ビームの特徴、それによる研究課題について紹介する。TRIACビームの高エネルギー化の現状についても触れたい。

Oct. 23(Tue), 2007 13:30-  
Nishina Hall, RIKEN

*The Colloquium will be given in Japanese*

Contact: RIBF Nuclear Physics Seminar Organizer  
[npsoc@ribf.riken.jp](mailto:npsoc@ribf.riken.jp)  
<http://ribf.riken.jp/~seminar/>